

子育てするなら東広島研究会
調査研究報告書

令和7年1月

はじめに

東広島市議会では、市政に関する重要な政策等および課題に対して、議員が相互に認識を深め、合意形成を図り、もって政策立案等を推進するため、政策研究会を設置するものとしている。

また、政策研究会では、①市政に関する重要な政策等及び課題についての調査研究、②調査研究結果の議会における共有を所掌事項としている。

本研究会では、令和5年7月から令和7年1月にかけて、「未就園児とその保護者への支援」をテーマに調査研究を実施した。

子育てするなら東広島研究会 構成議員

- ・ 会長 鈴木 英士
- ・ 副会長 下向 智恵子
- ・ 会員 木村 輝江
- ・ 会員 大下 博隆
- ・ 会員 宮川 誠子

1 調査研究テーマ

東広島市における未就園児とその保護者への支援について

2 調査研究目的

子育て世代の負担軽減等のため、東広島市において子育てしやすい環境をどのようにつくっていくのか、調査研究を行う。

3 調査方法

- (1) 執行部の実施したアンケート調査等から課題の抽出
- (2) 執行部への聴取、質疑
- (3) 子育て支援施設において、子育て世帯への聴取

4 調査研究期間

令和5年7月25日から令和7年1月10日まで

5 調査研究経過

年月日	内容
令和5年 8月30日	役職の決定、今後の進め方等について
10月30日	執行部からの説明、質疑
11月24日 11月28日 11月30日	(会員各自での調査) 子育て支援施設（キッズプラザひがしひろしま ゆめもくば）にて利用者及び施設運営者との意見交換
令和6年 2月 2日 2月 7日	(会員各自での調査) 子育て支援施設（コミュニティカフェ fun fan 陽だまり）にて利用者及び施設運営者と意見交換
4月17日	今後の進め方、視察先について
7月 3日	福岡市への視察
7月19日	明石市への視察
10月 7日	今後の進め方について
10月16日	執行部への聴取、質疑
12月19日	調査研究まとめ
令和7年 1月10日	調査研究まとめ

6 調査研究内容

(1) 市内子育て施設利用者への聞き取りと施設の視察（会員各自での調査）

【実施日】①令和5年11月24日、28日、30日

②令和6年2月2日、7日

【実施場所】①キッズプラザひがしひろしま ゆめもくば

②コミュニティカフェ fun fan 陽だまり

【内容】施設を利用している未就学児子育て世帯からのご要望

【それぞれの場で挙げた主な意見】

ゆめもくば

- ・小児科の予約が取れない
- ・ファミリーサポートセンターが使いづらい
- ・保育所の説明会が資料メインとなっており、園の様子などの説明動画が欲しい
- ・男性の育休が取りづらいため、行政からも支援がほしい

コミュニティカフェ fun fan 陽だまり

- ・育休退園制度を廃止してほしい
- ・一時保育が利用できなかった
- ・保育園の一次申込で入所ができず、二次申し込みの結果待ちである。仕事復帰のこともあり、不安である。

【議員からの意見】

ゆめもくば

- ・子育てに関する専門的なスタッフが多くいる
- ・広場を利用できる時間を月齢で区切っていることで、子供の成長に関する共通の話題を話せるのがよい

コミュニティカフェ fun fan 陽だまり

- ・予約なしで利用できる点が子育て世代には嬉しい点である
- ・学生や高齢者も利用でき、世代間交流ができる
- ・イベントが多いため、多くの方が利用できる

◎ヒアリングを通して感じた各施設に共通した課題は、子育て支援センター等に来ることが出来る保護者・子どもに関しては支援の手が届いているが、様々な理由でこうした施設に来ることができない保護者等への支援が必要な点である。そのため、アウトリーチでの支援や外出支援を行っている自治体を視察する事で新たな視点を得る必要がある。

(2) 視察調査

①【実施日】令和6年7月3日

【実施場所】福岡市役所

【内容】おむつと安心定期便について（p7 参考資料参照）

②【実施日】令和6年7月19日

【実施場所】明石市役所

【内容】0歳見守り訪問「おむつ定期便」について（p7 参考資料参照）

定期的に保護者と顔を合わせる支援である伴走型支援の先進地である、福岡市と明石市を視察した。

福岡市では外出支援として、各公共施設等に行った際に QR コードを読み込むことで、おむつなどが家に送付されるという施策を行っている。物品等が頂けるという事が後押しとなって外出するようになったという利用者の声もあった。

対して明石市ではおむつを定期的に届け、その際に簡単な相談が出来るなどのアウトリーチ型の支援を行っている。利用者のアンケートの中で、コロナ禍においては外出がしづらい状況であったため、人に相談できることが良いという声が多かったが、現在はおむつなどの

物品が頂けることが良いという声が多くなっていた。

本市の現状を考えた際に、どちらの支援も必要であるが、外出支援という視点での取り組みが必要ではないかと感じた。

(3) 執行部への聴取

【実施日】令和5年10月30日

【実施場所】東広島市役所第2委員会室

【内容】子育て支援のこども未来部への質疑と現状の確認

【実施日】令和6年10月16日

【実施場所】東広島市役所第2委員会室

【内容】これまでの調査や視察を経てこども未来部との意見交換

東広島市では、福岡市や明石市など、母子保健の分野で先進的な取り組みを行っている他自治体を参考に、それら先進地の取り組みをミックスした形で施策を展開しており、そのひとつが12か所に設置している地域すくすくサポートである。

また、妊娠期や子育て期に外出して誰かに相談することを促進するために、「おでかけすくすく」という事業を開始しており、この事業では、妊娠8か月、生後3～4か月、7～8か月の時期に地域すくすくサポートに出かけてもらい、インセンティブとしておむつなどを提供している。予約制で、オンラインで行きたい場所と時間を選べるようになっている。

外出が難しい方には、すくすくサポートの職員が電話で連絡を取り、最終的にはアウトリーチを行って支援を続けている。この取り組みはまだ浸透途中だが、妊娠期からの外出支援に力を入れて進めている。

他にも、地域の子育て支援コーディネーターや保健師との交流を通じて、子育て期の悩みを共有し、支援を受けられる体制を整えている。

このように全体として、福岡市や明石市等の取り組みを参考にしながら、東広島市独自の支援策を強化している。

(4) 政策研究内での協議調整

調査研究の進め方などの検討、調査内容の整理、研究結果の整理等のため、政策研究会内での協議を行った。

【実施日】令和5年8月30日、令和6年4月17日、10月7日、12月19日、
令和7年1月10日

【実施場所】東広島市役所全員協議会室、第1委員会室、第2委員会室

7 まとめ

調査結果

今回の調査研究の結果、東広島市における子育て支援は、アウトリーチと外出支援によるハイブリッド型が望ましく、その内容についても先進地と比較しても遜色ないレベルに達していると思われる。特に、妊娠期からの早期介入や相談力の向上に向けた取組みは高く評価できる。

一方で、支援メニューの多様化に伴い、全ての保護者に情報が行き届いていないという課題も浮かび上がってきた。また、育休退園制度の廃止や待機児童問題の早期解決など、保護者のニーズに応えるための更なる施策の充実が求められている。

施策の提案

1. 情報アクセシビリティの向上：

○ワンストップサービスの拡充

子育てに関する様々な情報を、保護者が一度に得られるような窓口を整備する等、体制を強化する。

○多様な情報発信

パンフレット、ウェブサイト、SNSなど、様々な媒体を通じて情報を発信し、保護者の目に触れる機会を増やす。

2. ニーズに合わせた支援メニューの拡充：

○育休退園制度の再検討

育休中の保護者が安心して子どもを預けられるよう、保育所の受け入れ体制の強化を通して本制度の廃止を目指す。

○待機児童問題の解決

保育士の確保や小規模保育事業の推進など、年度途中の待機児童解消に向けた取組みを加速させる。

○多様な子育てスタイルへの対応

核家族化や共働き世帯の増加など、多様な子育てスタイルに対応できるよう、孤立しがちな子育て世代同士が交流を深めることが出来る支援メニューなどを拡充すること。

3. コロナ禍後の変化への対応：

○オンライン支援の活用

コロナ禍で普及したオンライン支援を、今後も有効活用し、保育所の説明会の動画配信など、時間や場所の制約なく、より多くの保護者に支援を提供する。

○新たなニーズの把握

コロナ禍を経て、子育て世代のニーズがどのように変化したのかを定期的に調査し、支援策に反映させる。

4. 保護者との共創：

○意見交換会の開催

保護者との意見交換会を定期的に開催し、生の声を聞き、施策に反映させる。

○アンケート調査の実施

アンケート調査を実施し、保護者のニーズや満足度を調査し、施策の効果を検証する。

東広島市の子育て支援は、着実に進展しているが、今後も保護者のニーズを的確に捉え、より良い子育て環境の実現に向けて、継続的な改善と発展が求められる。今回得られた調査結果を踏まえ、関係機関と連携し、より効果的な子育て支援施策を展開していくことが重要である。

以上、市政に関する重要な政策等及び課題についての調査研究を行ったので、調査研究結果を報告する。

◎福岡市 おむつと安心定期便

福岡市のおむつと安心定期便は、0歳から3歳の誕生日までのお子さんを育てるご家庭を対象に、子育て関連施設やサービスを利用することで、おむつなどの育児用品と交換できる電子スタンプがもらえ、そのスタンプを使って商品を自宅に無料で配送してもらうことができる、福岡市が実施している子育て支援事業です。

この事業のメリット

- ・経済的な負担軽減：おむつなどの育児用品の費用が軽減され、経済的な負担を減らすことができます。
- ・子育てのサポート：子育て関連施設やサービスを利用することで、子育てに関する情報やサポートを受ける機会が増えます。
- ・子育ての負担軽減：定期的に育児用品が届くため、買い出しの手間が省け、子育ての負担を軽減することができます。

対象となる方

- ・福岡市内に在住の0歳から3歳の誕生日までのお子さんを育てるご家庭
- ・事前に登録用IDが記載された案内文書を受け取ったご家庭

利用方法

1. 登録：配布された登録用IDを使用して、専用サイトでメールアドレス認証後、お子様の利用登録を行います。
2. スタンプ獲得：子育て関連施設やサービスを利用することで、電子スタンプを獲得します。
3. 商品交換：専用サイトで獲得した電子スタンプを、おむつなどの育児用品と交換します。
4. 自宅配送：交換した商品が自宅に無料で配送されます。

◎明石市 おむつ定期便

明石市では、0歳児を育てるご家庭を対象に、**「おむつ定期便」**という素晴らしい子育て支援制度が実施されています。この制度は、単に紙おむつなどを提供するだけでなく、育児経験豊富な方が直接ご家庭を訪問し、子育てに関する相談に乗ったり、情報提供を行うなど、多角的なサポートが特徴です。

おむつ定期便のメリット

- ・経済的な負担軽減：紙おむつなどの育児用品が毎月無料で配布されるため、経済的な負担を減らすことができます。
- ・育児に関する相談：育児経験豊富な方が訪問するため、子育てに関する悩みや不安を気軽に相談できます。
- ・孤立防止：定期的な訪問により、育児中の孤独感を解消し、安心して子育てに取り組むことができます。
- ・地域とのつながり：子育て支援センターや保健センターなど、地域の子育て支援機関との連携が図られ、必要な情報やサービスに繋がりがやすくなります。

おむつ定期便の対象者

- ・明石市内に在住の0歳児を育てるご家庭
- ・生後3か月から満1歳までの乳児を育てるご家庭

おむつ定期便の流れ

1. 申請：出生届または転入届を提出後、約1か月後に申請書が届きます。
2. 訪問：育児経験豊富な方がご自宅を訪問し、おむつなどの育児用品を届けます。
3. 相談：子育てに関する悩みや不安があれば、相談に乗ってもらえます。
4. 情報提供：子育てに関する情報や、地域の支援サービスについて紹介してもらえます。